

ニーズ調査及び生活実態調査結果速報のまとめ

1 子育て環境

- ・「父母ともに子育てを担っている世帯」や「積極的に子育て・家事をしている父親」の割合が上昇しています。
- ・育児休業取得率が上昇しています。特に、就学前児童の父親は「育休取得中」と「取得したことがある」の合計は15.0%（平成30年度3.4%）となっています。育休を取得しやすい環境整備が進んでいることがうかがえます。
- ・他方、子育てを担っていない父親、育休の取得が難しかった父親・母親も一定数います。
- ・「子育ての駅」など多くの子育て支援事業は認知度、利用経験が高くなっています。認知度が低い一部の事業については、必要な時に必要な支援を利用できるように、引き続き周知が求められます。
- ・子育て環境や支援に対する満足度（「とても満足」「まあまあ満足」の合計）は、ニーズ調査で65.1%、生活実態調査で57.5%となっています。

2 家計、保護者の状況

- ・物価高騰の影響などにより、暮らしの状況については「大変苦しい」「やや苦しい」の割合が平成30年度調査より、3.3ポイント上昇しています。
- ・K6スコアの点数が高い保護者の割合も、物価高騰の影響などにより上昇しています。
※K6スコアとは、うつ病・不安障害などの精神疾患をスクリーニング（選別）するために開発された尺度です。
- ・ひとり親、困窮世帯を始めとして、経済的、精神的な負担が大きい保護者への支援が求められます。

3 ヤングケアラー

- ・（参考）令和3年度に新潟県が実施したヤングケアラー実態調査結果では、調査対象が子ども本人（中学2年生）であるなどの違いがありますが、「お世話をしている家族がいる」生徒のうち、「世話をしているため、勉強時間や睡眠時間が十分にとれない」等と回答した生徒をヤングケアラーと思われる子どもとし、その割合は1.15%（国1.78%）となっています。
- ・長岡市生活実態調査では、小学生以上で、家族のお世話をしている子どもの割合は4.5%（98人/2,165人）で、このうち、21.4%（21人）が「学校を休んだ」等の経験をしています。新潟県の定義に合わせますと、ヤングケアラーと思われる子どもの割合は、0.96%（21/2,165人）となります。
- ・県調査結果よりも低い結果ではありますが、ヤングケアラーと思われる子どもは一定数いるという認識を持って、計画を検討することが求められます。

コメントの追加【鈴木1】: 社会、父親の意識が変わり、子育て環境はある程度整いつつあることがうかがえます

参考

2/21 AMPnews

住友重機械工業は、2023年度の男性社員の育児休業取得率（育児休暇制度含む）が100%に達し、平均取得日数は1か月（31.6日）を超えたと発表した。

コメントの追加【鈴木2】: 新潟県がヤングケアラー支援の手引きの作成を進めています。この手引きの内容も踏まえて、次期計画の検討を進めていきます

・「ヤングケアラー」を知っている人（「よく知っている」「だいたい知っている」の合計）は75.4%ですが、知らない人（「言葉は聞いたことがあるがよく知らない」「まったく知らない」の合計）は23.9%